

キリストさま

え・たけべ もといちろう
ぶん・わきたあきこ



キリストさま

文・たけべ もといちろう ぶん・わきた あきこ



文庫パワロ舎



しずかな よるで、
とおい 星の あかりも さえ、
びつびつ のほろで ねむって いました。
きゆうに あたりが あかるくなって、
びつびつを びつくりおこします。 天からは うつくしい
さんびかと てんしの こえが きこえて きました。
「まあ、すてきな 星に いって ごらん。 まよう、
せかいの みんなのために すくいぬしが おおまけに なった。
うまやの かいほおけの なかに その あかりも人は ねむって いる。」

はかせたちが エトシムと あからんを おかんだ。と
ミササギの 王さまに つける 翼が いました。
王さまの なまきは へびと、とても ちがひ 王さまで、
「そんなに えらい あかばうなる、翼がなくなって 王に なるは
たいへんだ、いまのうちだに こらして しまえ」と、あかばうな
へいたいたちを エトシムへ 移させました、けれど それより 昔、
かみさまは じじいさまの ゆめの なかで おっしやったのです。
「おきなさい、じじいさまと ちりあさまを つれて、すぐ おいこくへ
にげなさい、へびが じじいさまを こらそうと して います。
じじいさまは すぐに ちりあさまを おこして、三人で とがりの くち
ミササギへ にげました。
そして、へびが 王に しぬまで そこで くらしたのです。



いっしょから 来て、 二人は
子羊の 前に きました。

二人は 互いから かいがられて
げんきに おそだちに なりました。

ほかの こどもたちと おんなじに 羊の ひらばを
かきまわったり、 羊の つかまわりの
ことを おそだちたり、 だいくの ひらばを
てつたり しながら……

まじい けれど あかしく
たのしい まいにちでした。





94年になって、イエスが、ヨルダン川に下りて来る
 ことで、ヨルダン川のほとりにヨハネという、ユダヤ人の有名な
 預言者があがいておしえていました。「ヨハネ、ヨハネ」これは
 やめよう、おまえのくちをたてるヨルダン川をしよう。
 ヨハネの預言者がヨルダンのところにきて、ここをさよめるしるしの
 せんがいをうけました。
 ある日、イエスさまもここにきて、せんがいをさすけてもらいました。
 イエスが水からあがけると、せんがいがはとのかたから
 イエスの背にとまり、くちのなかからおまえのこゝろが
 きこえてきました。「これはわたしのせんがいのせいですが、
 この預言者のいうことを聞いてください」



みずと いう 餅で、
けっこんしきが ありました。
ナリアさまも イエスさまも
おまねを うけて、その うちへ
おいでに なりました。
おいしいは なんにも つづいて
どうとう ぶどうしほが
なくなって しまいました。
ナリアさまは イエスさまに、
そっと おっしゃいました。
「ぶどうしほが なくなりそう。」



イエスさまは さわうにする 水を よんで、
そこに ならんで いた 水のな 蒸がめを
ゆびさしながら おっしゃいました。
「あれに お水を いっぱいに して
ください。」
お水を いっぱいに した とき
いつのまにか それほ じょうとうの
ぶどうしほに おおって いたのです。
この ふしぎを 見て、イエスさまの 力を
しんじ、でしに なった 人も いました。
イエスさまが かみさまのために
はたらかれる ときが きたのです。